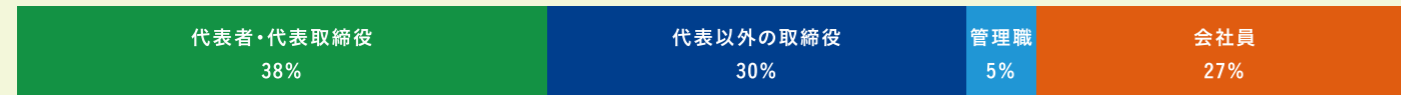


第一次産業から第三次産業まで、あらゆる業種で活躍しています。

●業種



●役職



入会要項

1.入会資格

20歳から37歳までの
西濃地域に居住
または勤務の方

2.書類審査

3.面接

4.入会金

65,000円

5.年会費

120,000円

6.基本出席

例会(月1回)・中間例会・
通常総会・臨時総会

名刺貼付

名刺貼付

名刺貼付

名刺貼付

入会のご案内



設立趣意書

社団法人 大垣青年会議所 設立趣意書

～1952年2月11日～

待望の講和条約発効を間近に控え新生独立日本のよるこびも程近いのでありますが、その行手には尚幾多の障害と苦難に満ちた茨の道が横はって居ります。この時に当り我々青年は共々に手をたずさえてこの障害を打ち破りこの苦難を乗り越えて前進し携まざる決意と逞しき情熱を以て問題に取り組み自らの知性と徳性の練磨に勤め地方経済の発展に奉仕して日本経済再建に寄与すると共に、さらに進んで国境を越えた限りない友情に結ばれ度いと思っております。最近全国各地に於いて青年会議所設立の気運の起こると時を同じうして当地に於いても志を同じうする有志を結成『大垣青年会議所』を設立し如上の目標に一歩を進めたいと思ひます。この趣旨に賛同し青年有志のご協力をお願いする次第であります。

青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所(商工会議所法制定にともない青年会議所と改名)設立から、日本の青年会議所(JC)運動は始まりました。共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもとに各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所(日本JC)が設けられました。現在、日本全国に青年会議所があり、「修練」「奉仕」「友情」の三つの信条のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革等の社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。自由な社会と経済発展を実現し、新しい社会をリードするにふさわしい人材育成を目的として、1915年にアメリカ・ミズーリ州セントルイスに生まれた小さな青年活動グループから始まったJC運動は、その活動が認められ、アメリカの社会的活動を担う主

要な青年団体へと発展していきました。1944年には「積極的な変革を創り出すのに必要な指導者としての力量、社会的責任、友情を培う機会を若い人々に提供することにより、地球社会の進歩発展に資すること」を使命に、アメリカ、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマの8カ国によって国際青年会議所(JCI)が発足。その後、年々加盟国は増え、日本も1951年に加盟、JCIの一員として新たな活動の一歩を踏み出しました。会員数17万人以上の世界で最も大きな青年団体です。現役メンバーに加え約250万人以上のOBがいます。毎年11月には世界会議が開催され、世界中のメンバーが一堂に会する重要な国際交流の場となっています。

公益社団法人大垣青年会議所 60余年の歩み

- 1952年2月 小川哲也初代理事長を始めとする西美濃地域の青年35名の熱き思いが結集され、全国で25番目の青年会議所として誕生する。
- 1964年1月 大垣青年会議所より日本JC副会頭を輩出
- 1968年5月 第19回東海地区会員大会を開催
- 1969年8月 社団法人格取得により(社)大垣青年会議所設立
- 1969年9月 花蓮JCと姉妹締結
- 1971年8月 各務原JC創立 大垣JCスポンサー
- 1972年10月 大垣市青年のつどい協議会発足
- 1974年10月 第1回十方石ふる里まつり
- 1984年8月 第1回水門川万灯流し
- 1988年1月 (社)大垣青年会議所より東海地区協議会会長を輩出
- 1990年9月 岐阜ブロックじゃがいも大会主管
- 1999年7月 (社)大垣青年会議所ホームページ開設
- 2004年6月 第31回JC青年の船「とうかい号」主管事務局
- 2008年8月 第49回岐阜ブロック会員大会主管
- 2009年9月 花蓮JC姉妹締結 40周年記念事業
- 2010年6月 公開討論会開催
- 2011年6月 寺子屋塾開催
- 2012年11月 一般社団法人に移行
- 2013年1月 (一社)大垣青年会議所より東海地区岐阜ブロック協議会会長を輩出
- 2013年5月 まちづくりコンテスト開催
- 2014年9月 ツール・ド・西美濃開催
- 2015年1月 公益社団法人に移行
- 2016年7月 まちづくり講演会開催「堀江 貴文氏×橋下 徹氏」
- 2017年11月 創立65周年記念事業開催「にしみの合唱フェスティバル」
- 2018年4月 大野町まちづくりコンテスト開催

修練 Training

大垣JCではメンバー自身の修練として、指導力やコミュニケーション能力の開発、その他青年経済人として必要な経営力の向上を目的とした様々な研修を行ない、自己研鑽に取り組みます。

奉仕 Service

大垣JCでは創立以来、様々なまちづくり運動を展開しています。今後も将来のまちづくりのため、ビジョンの策定・研究・提言、そして活動を行なってまいります。また青少年育成として、将来を担う子どもたちのために健全育成事業も積極的に実施します。

友情 Friendship

様々なJC活動を通じて築かれる友情は、メンバー相互の一生の財産となります。大垣JC内だけでなく、県下近隣のJCをはじめ、東海地区、日本、そして世界へとJCのネットワークは広がっています。また、メンバー同士の交流も盛んに行ないます。

活動紹介 Activities Introduction

講演会

意見交換会

新入会員研修

富士山登山

関係各諸団体との交流

国際交流

仲間づくり事業

全国、全世界で活動している青年会議所メンバーや、メンバー家族、友人などと交流を図り、友情を深め、よりよい活動へとつなげています。

まちづくり事業

市民や行政の共感を得ながら、政策提言集団としてまちづくり運動を展開しています。自ら先頭に立ち、環境美化や地域の魅力再発見、西美濃地域の活性化に若いエネルギーを燃やしています。

ツール・ド・西美濃

水門川万灯流し

泥リンピック 2017

大垣JCにおける事業までの流れ

- 1 公益社団法人大垣青年会議所では、様々な事業を行う目的を定め、各委員会が開催されます。
- 2 各委員会より提出された事業計画案は、常任理事会及び理事会で協議・審議されていきます。
- 3 審議を受けた事業は、計画に従って実行されます。



委員会開催の様子

各委員会ではメンバーが時間を調整して集まり話し合いが進められます。真剣な議論の中にも笑顔があり、そして友情が深まります。少しずつ意見がまとまり、事業(案)が形になっていきます。



理事会開催の様子

常任理事会・理事会では、事業目的や事業内容、予算などが適正かなどが議論されます。理事メンバーも同じ青年会議所メンバーで構成されています。



創立65周年記念事業の様子

常任理事会及び理事会にて承認された事業計画書に基づき、事業を実施します。